

一 般 菊川市の茶業振興について

須藤 有紀 (無所属)



11月27日付、産経新聞において「お茶で新型コロナウイルス無害化、1分で最大99%」という見出しの新聞報道がなされた。お茶の効能やおいしさをPRし、茶業振興の実現と緑茶を通じたコロナウイルス感染症拡大抑止への貢献について伺う。

フルエンサー(※1)との連携による菊川茶のPRについて。

A インフルエンサーが効果があるのは、前職の天竜浜名湖鉄道のとときに大変経験している。やり方によってはそれほどお金のかららない広報だと思う。ぜひ実行していきたい。

Q 当市における茶業振興の重要性や必要性について市長や執行部の考えは。また検討中の施策は。

A 茶業は、本市の基幹産業として成長してきた。今後も維持していかなければいけないと認識している。

茶業振興計画に基づき高収益作物との複合経営の推進や経営体強化に向けての事業を引き続き推進していくとともに、高い意識と意欲的に取り組んでいる農業者への支援を強化していく。生産者や茶商、JAなど茶業関係者と改めて課題の洗い出しを行い実効性のある取り組みを進めていく。

Q SNSやブログ、動画サイトなどで大きな影響力を持つ、イン



市内の茶畑

A お茶の寄附は、既に取り組んでいる。各茶業委員会で小学校や幼稚園に贈呈し、新聞報道もされているクラウドファンディングの活用は委員会や会議の席で紹介し検討する。

Q クラウドファンディング(※2)で広く寄附を募り、例えば子ども食堂や病院、福祉施設などにお茶を寄附するといった取り組みは可能か。

一 般 施政方針について質問しました

織部 光男 (無所属)



市政運営の考え方、予算大綱について伺う。

Q 菊川駅北口と自由通路を含めた駅北地域の費用対効果の確認をしているか。

A 来年度の当初予算で整備効果の検証を行う予定。

Q 予算大綱で多額の財源が必要となる大型事業は極力抑えるところだが、「駅北開発構想」はなぜ大型事業に入らないのか。

A 本市の20年後、30年後の将来を見据えた未来への投資であり重要な事業である。

Q 裾野市と菊川市は似てはいる。標準財政規模は裾野市114億で、菊川市は113億。30年度の数値で、財政力指数、裾野市1.06で不交付団体、菊川市は0.76。地方債残高も裾野市は190億2400万、菊川市は190億1800万でほとんど同じ。ところが、財政調整基金、裾野市は45億3000万、菊川市は23億7800万。

非常に似ている。裾野市の高村市長がこのような、財政非常事態を宣言したことについて市長はどのように考えるか。

A 裾野市と菊川市の場合、大きな違いがあるというふうに思っている。中身としては、裾野市は、財政力指数が高い、法人市民税が非常に高いまち。「市民もまちが豊かだ」という認識が強い」という高村市長の考えが新聞に載っていた。菊川市は、切り詰めた中でやっている。市民の方々と現在の状況を共有するため高村市長は発言したと思っている。

他に「エネルギー問題」について質問しました。



※1「インフルエンサー」 主にSNSでの情報発信によって世間や人の思考、行動に対して大きな影響を与える人物

※2「クラウドファンディング」 インターネットを通じて不特定多数の人に資金提供を呼びかけ、趣旨に賛同した人から資金を集める方法